



Photo: Takeshi Iijima



三浦エリアと安房エリアをARTでつなぐ旅の情報紙  
ARTISTIC BAY BREEZE

VOL.2 Take Free

編集・発行／現代表現研究所

〒299-1861 千葉県富津市金谷3492-1  
TEL0439-32-1427 080-4419-3995  
e-mail info@desertrose.co.jp

Modern Expression Laboratory  
3492-1 Kanaya, Futtsu-City, Chiba 299-1861 Japan

発行日／2020年12月20日

発行人／総野文哉

印刷／合同会社現代表現研究所

## 旅にスパイス② インタビュー

### クリエイティブな縄文性の時代へ

真砂 秀朗 アーティスト&ミュージシャン

葉山森戸海岸のほど近くにフランクロイドライトの愛弟子の遠藤新が手がけた築80年の日本家屋があります。一昨年、そこをアトリエにリノベーションし、サロン&ギャラリー「明風」を展開しているアーティストの真砂秀朗さんを訪ねました。

真砂さんは、ペトログリフがアートの原点であると語ります。真砂さんの手がける芸術は、日本人の魂に直接語り掛け、コロナ時代の私たちの不安な暮らしに直接問いかけます。

### インディアンフルートに魅せられて

1月23日に「祈り」というCDをリリースいたしました。世界中がコロナ禍でロックダウンする中で、社会の行き詰まりや混沌が可視化され始めて、孤独と不安の中で私たちの心が欲するものは何かと問うてみたかったのです。楽器のルーツは、素朴で人間的な倍音が活きる民族楽器です。インディアンフルートは、音色は小さくとも、人の心の琴線に直接ささやきかける道具です。音量や音域を増すために進化した楽器よりも優しい響きで心にしみていきます。特にインディアンフルートは、ラヴフルートとも呼ばれ、インディアンの求愛のための楽器でもあったのです。コロナの時代に必要なのは、共振する私たちの心なのではとこのCDで問いかけています。

### 自然とのシンクロが生む豊かさ

アーティストとして私が伝えたいこと、

それは豊かさの本質です。私たち日本人の血に流れる縄文性について、農的な感性は本能として心地よいものです。水のきらめきや風のそよぎ、土に触れて心地よいのは、私たちが縄文から受け継いできたものだからです。創作し表すことを芸術と捉え表現していくことは、縄文人も我々も何ら変わらない日常なのです。土器に見られる縄目文様の豊かな表現力は、私たちの持つ感覚よりもはるかに自由で自然と一体です。森羅万象を歌い、自然とシンクロする農をアートすることから私たちの文明は始まったのです。谷戸の「縄文たんぼ」を始めてから20年、風のそよぎや鳥たちのさえずり、虫やカエル、ケモノたちの鳴き声が心地よいBGMになる「UTAUTA / 歌う田」が、私の芸術の底流にあります。縄文の太古から受け継がれる自然農を実践し、私の芸術活動に大きな示唆を与えてくれる場所になりました。大量消費文明にはないこの豊かさをアートや音楽、デザインに生かし、メッセージとして発信していま

す。自然と一体となる悠久が私の心の原初であり、人も森羅万象とシンクロしていることを「縄文たんぼ」から学んでいます。

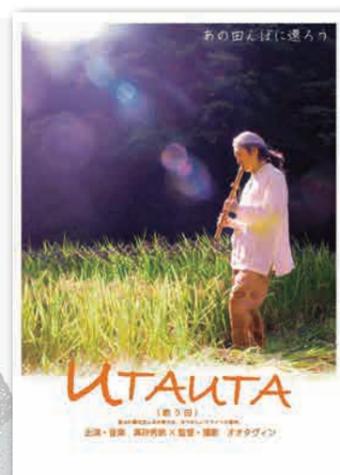
### 「空なる器」

瞑想や禅に求める無とは、森羅万象に溶け込み自然と一体になることです。自我に満ちた心を「無」の状態にするのは、自然という宇宙と一体になることです。私のアーティストとしての活動は、もともと自分自身を探し求める旅が原点でした。東京芸術大学に進み、デザインを追求し始めた1970年代、ベトナム戦争の閉塞感から社会は愛と自由を求めていました。あらゆる事象が私にとってアーティストックに輝く時代でした。ジョン・レノンやドノバンに共感し、音楽活動をしていました。1980年代、アーティストがシーンをつくる社会から、資本ありきのマーケティングが優先される社会へ変化していきました。売れるものが善という価値の変化です。マーケティングが先行し、巨大資本が世の中を支配する社会へと変わり始めたのです。そんな社会システムの変化の中でのデザインに疑問を持ち、自らのアイデンティティを探る旅を始めたのです。そこで見えてきたのが多様性溢れるしなやかな文化や価値でした。突き詰めて見えてきたことが縄文を源とする自然と無二一体の精神性「空なる器」の存在です。私のデザインは「空なる器」を表現することです。「空なる器」はシステムに捉われない自由の器なのです。

### UTAUTA / 歌う田

世界を巡り、40年前からこの葉山で創作活動を始めました。「空なる器」をいかに表現していくのか試行錯誤の繰り返しです。人の心の根源に響く民族楽器を通した音楽活動を行うことや縄文たんぼでの作業で手がかりが見えてきました。昨年9月に映画「UTAUTA / 歌う田」が完成し、私のモチーフがひとつの映像というカタチになりました。

私の田んぼは、自然界と常にシンクロしています。冬に水田を水で満たし、まったく耕さず微生物の力で栄養分を補って、湿地植物である稲の潜在力を引き出して丈夫な稲に育てる縄文時代の田んぼなのです。稲本来が沼の生態の一部になるので、稲も丈夫になり手がかからない。ひとりで年間20日間の手間で夫婦分の

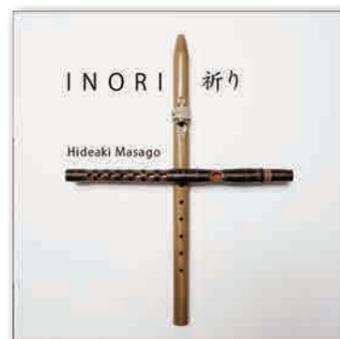


映画UTAUTAのポスター

米の収穫ができます。大量消費社会の生産性重視の農業にはない、健やかな水田は現代社会の矛盾を問いかけてくれました。

### 個性こそ財産、多様性の時代へ

コロナがもたらした矛盾は、これから数年で社会を一変させるのではないのでしょうか。100年前ペストが契機となったルネサンス運動のように、大きな社会変革がやってくるのではと思います。大量消費社会で見失った個のアイデンティティ。規格外の人々がはじかれる社会から、個人を敬い尊重し合う社会が訪れるのではと思います。中央集権的な管理社会から多様な価値観のあふれる社会です。新作のCD「INORI 祈り」はコロナの外出自粛の時期に書き上げたものです。私たちが自然に抱く畏怖の念やふとした瞬間に感じるものある法則や力のようなものや縄文性を表現しています。



INORI CDジャケット

### サロン&ギャラリー 明風

●所在地 〒240-0112 三浦郡葉山町堀内810  
●連絡先 048-876-2205

\*「明風」は一般公開しているわけではないのでご配慮ください。

版画「SUN & MOON」(2004)



サロン&amp;ギャラリー明風